

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	39人	算数	39人	理科	39人
第5学年	国語	48人	算数	48人	理科	48人

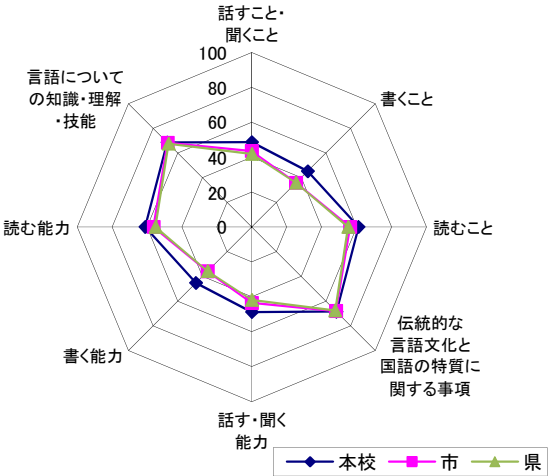
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	48.7	43.5	41.8
	書くこと	45.3	35.9	35.8
	読むこと	61.1	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.5	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	48.7	43.5	41.8
	書く能力	45.3	35.9	35.8
	読む能力	61.1	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	68.5	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

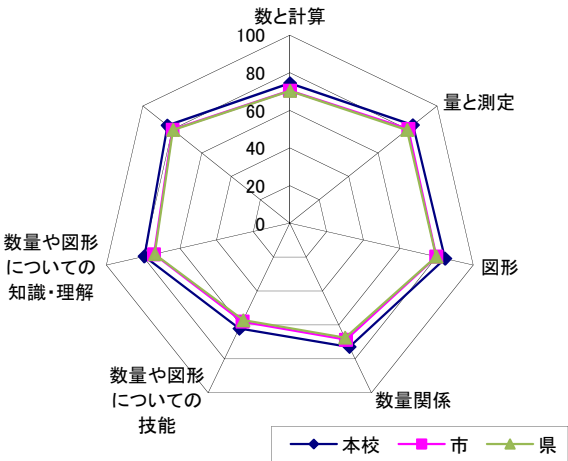
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は48.7%で市の平均を5%以上上回っている。 ○設問別に見ると、「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」は、市の平均正答率を13ポイント上回っている。	・日常の学校生活の中で、相手の言いたいこと(話の中心)は何かを意識して聞いて意見を述べたり、進行に沿った話し合いをしたりするようにさせるとともに、話の内容をしっかりとらえ集中して考えながら聞く習慣をつける。
書くこと	○平均正答率は45.3%で市の平均を7%以上大きく上回っている。 ○設問別に見ると、「招待状に入れる二つの内容を一文にまとめて記述する」「話し合いをもとに、招待状に付け足す文を記述する」は市の正答率を大きく上回っており、身に付いていると言える。	・自分の考えや感想などの意見を文章で表現する機会を多く設け、書く力をさらに高めていく。
読むこと	○平均正答率は61.1%で、市の平均を5%上回っている。 ●設問別に見ると、「指示語(これ)が指す内容を捉える」の正答率が低かった。 ○「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」「登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える」「叙述を基に登場人物の性格などについて想像して読む」の正答率が市の平均を10ポイント以上上回っている。	・授業では、指示語や文脈に気を付けて読む指導を今後も続けていき、読解の手掛かりになるような語句を自分で見つけられるようにさせる。 ・読書が苦手な児童がいるので、ブックトークや読み聞かせなどを通して読書を啓発し、読書量を増やしていけるように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は68.5%で、市の平均を上回っている。 ●漢字の書きでは、「弟」「遠足」の正答率が低かった。 ●設問別に見ると、「簡単な単語のローマ字による書き方」の正答率は市の平均を下回り、「国語辞典の使い方」の正答率は市の平均を大きく下回っている。	・普段より文章を書くときは既習の漢字を使うよう指導し、3年生までに学習した漢字の復習に力を入れ、確実な定着を図る。 ・ローマ字表を掲示するなど、日常的に見られるようにし、ローマ字にふれる場を増やしながら復習により定着させていく。 ・授業の中で、国語辞典を使って意味調べをする学習を取り入れ、使い方を復習しながら定着を図る。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.4	70.5	70.3
	量と測定	83.6	80.4	79.6
	図形	84.6	79.8	79.7
	数量関係	72.9	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	62.1	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	79.3	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	83.3	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

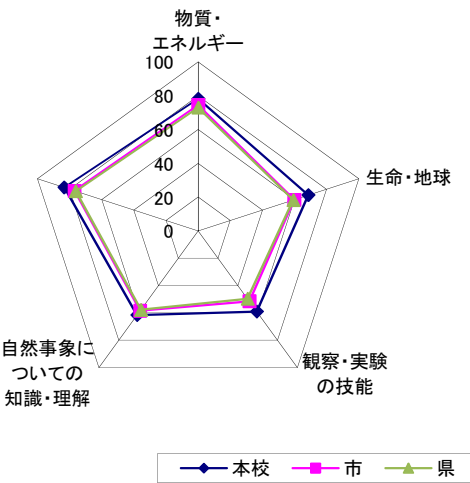
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は74.4%で市の平均を3%以上上回っている。 ○たし算・ひき算・かけ算の問題では大きく、わり算の問題ではわずかではあるが市の平均を上回っている。 ●「整数－小数＝小数（1/10の位までの小数）」と「真分数＋真分数＝真分数（同分母分数）」の正答率が市の平均よりやや低い。	・さらなる習熟を目指し、プリントやドリル等を活用して繰り返し復習することにより、定着を図る。
量と測定	○平均正答率は83.6%で市の平均を3%以上上回っている。 ○設問別にみると「小数の大小関係を不等号を用いて表す」の正答率は100%であった。 ●「数直線の目盛りを読み取り、分数で表す」は市の平均正答率をやや上回ってはいるものの51.3%と割合的には決して高いとは言えない。	・「整数を単位分数のいくつ分かで表す」という問題の正答率は90%を超えているので、分数の概念を復習するとともに「数直線の目盛りを分数として表す」という問題を数多く解く場を意図的に設け、習熟を図る。
図形	○平均正答率は84.6%で市の平均を4%以上と大きく上回っている。 ○設問別にみると「2つに折った紙を直線で切り、開いてできる図形を選ぶ」と「与えられた1つの辺の続きをかいて正三角形を完成する」の正答率は、ともに89.7%と高い。 ●「半径3cmのボールが縦に3つ入った筒の高さを求める」という問題の正答率は74.4%と上記2つの問題に比べるとやや低い。	・円や三角形については授業で扱う時期も限られているのでプリントやドリルを活用して復習する機会を意図的に設けるとともに、適に応用問題を出題し、数学的な思考力を育むようにする。
数量関係	○平均正答率は72.9%で市の平均を4%以上と大きく上回っている。 ○設問別にみると「kmで表された長さをmの単位に換算する」では94.9%、「棒グラフの1目盛りの大きさを読み取る」では92.3%と高い正答率であった。 ●「秒で表された時間を分の単位に換算する」の正答率が市の平均より低い。	・既習内容をしっかり身に付けられるよう、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。 ・「秒を分の単位に換算する」問題は重点的に復習し、理解に繋げたい。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	78.3	74.5	72.9
	生命・地球	68.6	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	59.0	51.6	49.7
	観察・実験の技能	61.5	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	83.3	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、78.3%で、市の平均より3%以上上回っている。 ○設問別にみると、「鏡で反射させた光を重ねたときの明るさの違いが分かる」「どのような性質を基準にして分類したかが分かる」の正答率が、市の平均正答率より約10%高い。 ●「回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方が分かる」の理解については、市の平均を大きく下回っている。	・実験結果から導かれた基礎的な知識について十分理解されていない単元については、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、基礎的な知識の定着を図る。 ・理科で学習したことで身近な事象を関連付けたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるようにはたらきかける。
生命・地球	○平均正答率は、68.6%で、市の平均より8%以上の差で大きく上回っている。 ○ほとんどの問題で、市の平均正答率を上回っていた。特に、「昆虫の体の色とすみかの記録をもとに考察する」「場所と見つけた昆虫の数のグラフをもとに考察する」についての正答率が、市の平均より約20%高い。 ●「観察記録をもとに昆虫を選択し、その理由を説明する」の理解については、市の平均を下回っている。	・身近な自然や事象について「なぜ」「どうして」と思うよう促したり、自分の目で確かめてみることをすすめたりし、科学的な興味関心をさらに高めさせたい。 ・実験・観察から考えたことを表現する力や科学的現象を説明する力をつけていけるように、授業においても自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力を育成する。 ・季節の変化について日常的に話題にし、温度、天体、草花や樹木、身近な生き物などの様子に気づく機会をさらに増やしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている」「学習して身に付いたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答が、いずれも市全体を上回っている。このことから児童が学習は自分の将来や生活において必要かつ大切なものであると認識していることが分かる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」について肯定的回答が3ポイント、「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」について肯定的回答が市全体より14ポイント、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができる」について肯定的回答が15ポイントそれぞれ高いことから学習に対する好奇心が高いと言える。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答が、ともに市全体を15ポイント以上、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では10ポイント以上を上回っていることから学習意欲の高さがうかがえる。

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」についての肯定的回答が市全体を20ポイント近く上回っており、家庭学習の習慣化が図られていることが分かる。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのみまりなどを決めていると思う」の肯定的回答が92%と高く、研究主題である「自らの考えをもち、分かりやすく表現しようとする児童の育成～学び合い、深められる授業づくり～」が実践されている結果であると思われる。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」についての肯定的回答が市全体より高いことから、学校における自己肯定感が高いと言える。

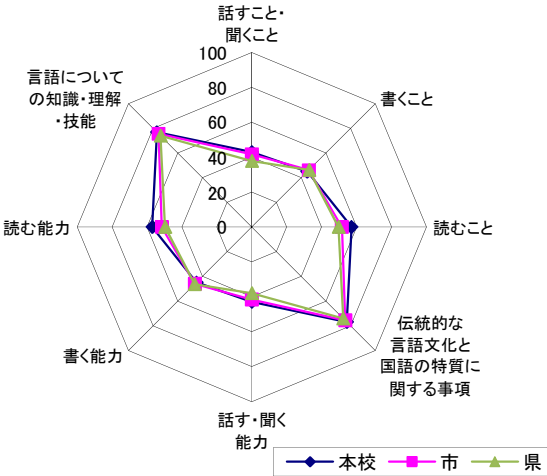
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」についての肯定的回答率は50%を下回る一方、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」との問いに対して「難しい」と回答している児童が80%を上回っていることから、授業で、話し合い活動が多く取り入れられ、他者の意見や考えを聞くことは得意だが、自分の考えや意見をまとめたり発表したりすることには苦手意識をもっている児童が多いことがうかがえる。

●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」についての校内肯定的回答率が50%を下回っており、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答率も51.3%と決して高い値とは言えないことから、調べ学習においての資料活用への理解が低いことがうかがえる。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	42.9	41.6	37.9
	書くこと	44.9	46.1	46.3
	読むこと	57.1	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.9	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	42.9	41.6	37.9
	書く能力	44.9	46.1	46.3
	読む能力	57.1	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	76.9	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

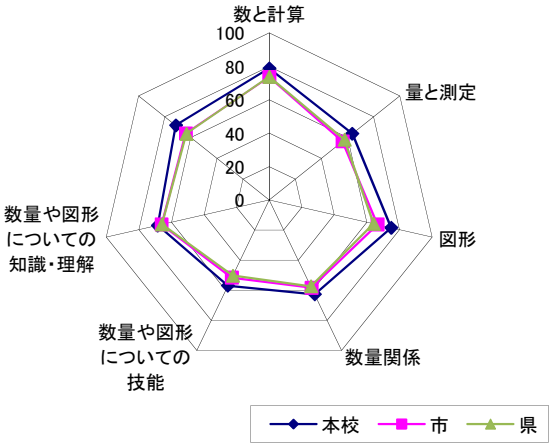
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、42.9%で県の平均を5%上回っており、市の平均もわずかに上回っている。 ○設問別に見ると特に「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」が、県平均を7.6ポイント上回っている。 ●「提案者の役割を理解し、話し合いに参加する」においては、県の平均を5.7ポイント上回っているものの、市の平均とはほぼ同じである。	・国語の授業はもちろんのこと、その他の教科や学級活動・学校行事などにおいて、相手の話を集中して聞こうとする習慣をつけ、話し手の意図や気持ちを聞き取る力の定着を図るとともに、自分の伝えたいことを、正しく発信できる力を高めさせる。 ・話し合い活動において、司会者や提案者や記録者などの役割を経験させることによって、話し手や聞き手のスキルを高めさせるようにする。
書くこと	●平均正答率は、44.9%で市の平均をわずかに下回っている。 ○設問別に見ると「資料と話し合いを基に学級新聞に付け足す文を記述する」は県や市の平均を上回っていた。 ●「必要な情報を読み取り、学級新聞の見出しを選択する」が市や県の平均を6ポイント下回っている。	・感想などを自由に書くという学習活動だけでなく、目的に応じて必要な条件を満たしながら文章を書く機会を設定していく。 ・個人差への対策として、課題を与える際に難易度を変えた教材を用意し、ステップを踏んで書く力を定着させていくような教材の工夫を図る。
読むこと	○平均正答率は57.1%で、県や市の平均を大きく上回っている。 ○説明文の読解において、「段落相互の関係を押さえて読む」「中心となる語をとらえて読む」では、県や市の平均を大きく上回っており、物語文の読解においては、「本文中の言葉が指す内容を捉える」も大きく上回っている。 ●「目的に応じて文章を要約する」においては、県と市の平均とほぼ同じである。	・説明文においては、叙述を正確に読み取るための指導として、語句の意味を調べたり段落の構成をとらえたりさせる。さらに、指示語や接続語など読解のキーワードに気付いて読むことを通して、要旨をとらえる力を高めていく。 ・ブックトークや読み聞かせなどを通して読書を啓発し、読書量を増やしていけるように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は76.9%で、県や市の平均を上回っている。 ●漢字の読み「努める」の正答率が市の平均を下回っていたが、漢字の読み書きについては県や市の平均と大きな差はなかった。 ○「主語と述語との関係」「漢字辞典の使い方」「ことわざの使い方」の正答率は、県や市の平均を大きく上回っている。特に「ことわざの使い方」の正答率は95.9ポイントだった。 ●「漢字の組み立て(かまえ)」の正答率が県や市の平均を10ポイント以上下回っている。	・4年生までに学習した漢字の復習に力を入れ、確実な定着を図る。また、新出漢字を覚える際に、同音や同訓の既習の漢字や形の似た既習の漢字を提示したり部首について触れたりして復習の機会を増やしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.7	73.6	73.7
	量と測定	63.7	56.2	57.7
	図形	75.0	66.5	64.2
	数量関係	62.7	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	57.1	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	68.5	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	71.6	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

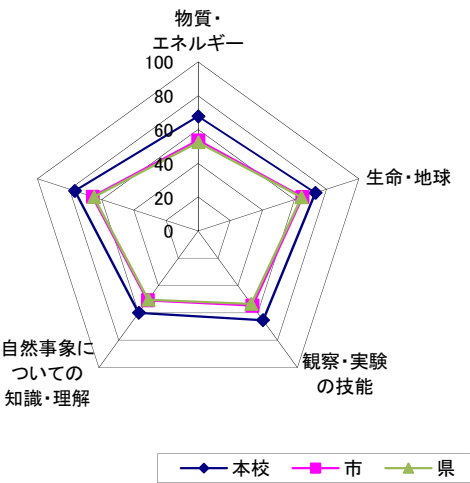
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は78.7%で、県や市の平均を5%以上上回っている。 ○ほとんどの問題で県や市の平均を上回っており、特に分数や概数についての正答率が高かった。 ●「3位数×2位数の計算」「小数第2位までの小数を100倍した数を求める」の正答率は県や市の平均を下回っていた。	・かけ算やわり算、小数、分数、概数の問題において、全体としては学習内容がよく身につけている結果ではあるが、さらに習熟するよう、ドリルなどを活用して繰り返し復習し、定着を図る。
量と測定	○平均正答率は63.7%で県や市の平均を7%以上大きく上回っている。 ○設問別にみると、「1㎡の正方形の面積をcm ² の単位で表す」「およその面積を推測する」「複合図形の面積を求める場面」で図に適した式を選ぶ」の正答率が市の平均を大きく上回っていた。特に単位の換算においては市の平均を22ポイントも上回っていた。 ●「正方形のタイルの面積を求める」の正答率が県や市の平均を下回っていた。	・「面積の求め方」「角の大きさ」については、面積の単位や角のはかり方も合わせて、繰り返し復習し定着を図る。 ・身近にあるものの面積や角を推察し、適切な単位を使って表す機会を意図的に設けるようにする。 ・面積の単位(m ² ・cm ² ・a・ha)の関係を繰り返し復習させ、身近なものの面積や広さを例示することによって実感を伴った理解につなげていきたい。
図形	○平均正答率は75.0%で市の平均を10%近く上回っている。 ○特に「ひし形を対角線で分けた図形が二等辺三角形になる理由」「直方体においてある面と垂直な辺を選ぶ」の正答率が県や市の平均を大きく上回っていた。	・図形の性質や作図の仕方において、学習内容がよく身につけている結果ではあるが、さらに習熟するよう、作図する演習を繰り返し、技能の定着を図る。 ・直方体や立方体の辺や面の垂直・平行の位置関係については、今後も復習する機会を多く与えていく。
数量関係	○平均正答率は62.7%で市の平均を4%以上上回っている。 ○ほとんどの問題で県や市の平均を上回っており、特に「段と周りの長さの関係を○と△を用いた式で表す」「式を読み取り問題場面と関連付けて考え方を説明する」の正答率が上回っていた。 ●「買い物の場面で1つの式に表しおつりを求める」「図や表から変わり方を考え表に当てはまる数を求める」は県や市の平均とほぼ同じだった。	・既習内容をしっかり身に付けられるよう、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。 ・文章問題については、問題文から、図や数直線を使って考える過程を繰り返し復習することによって、理解の定着を図る。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.8	53.7	52.5
	生命・地球	73.0	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	65.3	54.7	53.4
	観察・実験の技能	59.9	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	76.8	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は67.8%で、市や県の平均を14%以上大きく上回っている。 ○「電気の働き」では、県や市の平均を16～18%も上回っている。 ○物質・エネルギーの領域においては、すべての区分内容において、県や市の平均を15%前後も上回っている。 ●空気が熱せられると上方へ移動すること、金属の熱せられる順番の設問での正答率が低かった。 ●分かったことをもとに理由を説明する設問では、内容によって正答率のばらつきがあった。授業で習った内容に関しての記述問題は正答率が81.6%と高く、コップが割れる理由の推測という発展的な設問では28.6%と低い。(それでも県、市よりは高い。)	・授業の初めに、学習問題をはっきりとわかるように提示し、毎回の学習や実験の目的をよく把握させて進めることにより、受け身ではなく児童自らが主体的に課題解決に向かえるようにさせる。また、予想を立てさせそれを検証していく過程を大切に、児童の興味関心が持続するような授業展開や教材を工夫していく。 ・実験した内容を理解し、知識が身に付いている単元とそうない単元があるので、単元の最後のまとめで、学んだことをもう一度振り替えられるようにしたり、内容を自分なりにまとめたりする時間を作り、知識の定着を図る。 ・実験や観察の結果と考察を分けて考えさせ、自分の言葉で表現させる学習や、予想やその理由について文章で表現させる学習を重要視し、単元に応じて重点的に指導する。 ・学習した内容を日常生活の中で具体的に考えたりさせたりして、事象の仕組みや関係を考えていく力を育成していく。
生命・地球	○平均正答率は73.0%で、市や県の平均を8%以上上回っている。 ○「人の体のつくりと運動」では、市や県よりも18%前後の高い正答率である。 ○一日の気温の変化の様子に関する設問では90%前後の正答率であった。 ●グラフから気温と茎の伸びに関して記述する問題では、61.2%とわずかながら市や県の平均を下回った。 ●「季節と生物」では、市や県よりも3.3%ほど平均が低かった。夏には見られない生物に関する設問の正答率の低さが影響している。	・「季節と生物」の関係性において、図書資料や、映像資料を用いて知識を深めさせたい。 ・実験・観察から考えたことを表現する力や科学的現象を説明する力をつけていけるように、授業においても自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力を育成する。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○全体的に肯定的な回答が多く、前向きな気持ちをもって学校生活を送り、家庭でも安心して生活している児童が多い傾向がみられる。

○「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定的回答が約80%で、県や市の平均を14、10%ずつ上回っている。「家の人は、ほめてくれる」についても約88%の肯定的回答率である。家庭との連携をさらに深め、学校と家庭の両面から児童の良いところをさらに伸ばしていけそうである。

○「早寝早起き」、「食事の好き嫌い」、「家でのきまり」といった基本的生活習慣についての肯定的回答も90%前後の高さであり、家庭での意識の高さが表れた。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」への肯定的回答は95%以上であり、学びに向かう意欲の高さを感じることができる。

●「学校の宿題は、自分のためになっている」への肯定的回答が100%に対して「学校の宿題はやりたくない内容だ」への肯定的回答は77.6%である。県や市の平均を超えているものの、差がある。宿題の内容やメニューの精選の必要がある。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」への肯定的回答は93.9%で、教員から認められていると感じている児童が多い。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」への肯定的回答は約80%で、クラスへの所属意識は高い。「自分には、よいところがある」への肯定的回答も約80%であり、相関しているものと思われる。行事や学級経営において役割を持たせ、さらに高めていけるように支援したい。

●「自分は勉強が良くできる方だと思う」への肯定的回答は65.3%で、市や県の平均よりも高いものの、学習への意欲の高さとの差がある。意欲が実力に結びついていないと感じている児童が多いようである。学習意欲が適切に実力に反映させられるよう、個々の課題に対して支援を続けたい。

○学習に関する質問に対してはほぼ市や県の平均を上回る肯定的回答を示している。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」に対しての肯定的回答は49.0%と極端に低く、県や市の平均を10%以上も下回る結果となった。学習に対して肯定的な回答を示している児童が多いことから、冷静に自分のことを判断した結果といえる。各教科において、書く力を伸ばすために、文の型や、使用する言葉を示し、ほめながら書くことへの抵抗感を減らし、自信を持たせていきたい。

○「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」への肯定的回答は98%と非常に高い。維持できるように学級経営を続けていく。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答が63.3%と低い。自分の弱点を克服できる機会なので、そのやり方を指導したり、宿題に課したりして、定着を促していきたい。

○教科の好き嫌いに関しても、全体的に高い意欲を示している。